

事後評価シート

調査研究課題名	海外インフラ展開（リープフロッグ・競合企業）に関する調査
担当者	主任研究官 鶴指眞志、研究官 安部遼祐
① 当初目標と目標達成度	<p>インフラ海外展開を取り巻く環境は、中国、韓国、新興国の企業の台頭等により厳しさを増している現状がある。この状況の下、本調査では、海外インフラ展開の促進に向けて、本邦企業が海外建設市場獲得に向けた戦略立案等において有益な基礎情報の提供を目標とした。そのために、競合国企業の状況、戦略、取り組み等を把握・分析を実施したものである。具体的には、途上国・新興国におけるリープフロッグ型発展と海外インフラ展開における競合企業について、2つの視点からの調査を実施した。</p> <p>まず、前半の途上国・新興国におけるリープフロッグ型発展に関する調査においては、先進国が長い年月を掛けて構築してきた段階的な発展過程を、新たな技術の活用により一足飛びに飛び越えるリープフロッグ型発展に着目し、特徴的なリープフロッグ型発展が出現した新興国・都市の背景、及び実現ルートについて8事例に着目して詳細に調査した。これらの事例から、インフラやサービスの遅れや不足による課題について、ICTを活用して課題解決を行っている現状等を整理した。</p> <p>次に、後半の海外インフラ展開における競合企業に関する調査については、海外インフラ展開に関する基礎資料を作成するため、国土交通省に関係が深い6分野（都市・不動産、道路、水、航空、港湾、鉄道）29社を、各分野の世界売上ランキング等をベースとし、学識経験者等の助言を踏まえ抽出した。これらの海外企業の経営状況や海外展開の状況等について、具体的な途上国での展開事例等も含めて整理した。各企業の公開情報から、海外展開の状況等が把握できた。</p> <p>その結果、それぞれの調査において、海外インフラ展開におけるリープフロッグ型発展の現状及び競合企業の状況が把握できたため、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>途上国・新興国におけるリープフロッグ型発展に関する調査については主にWEB検索等を用いて情報収集を行った。海外インフラ展開における競合企業に関する調査については、各企業の各企業のAnnual ReportやWebページ等の公表されているデータをもとに情報を収集した。</p> <p>また、内容については省内外各局にも説明、照会するとともに、本所の研究発表会でも発表を行うことで内容の妥当性について幅広い視点からのチェックを行ってきた。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程で、海外企業におけるインフラ展開に関する知見を有する有識者に、随時ヒアリングを実施し、様々な角度からご意見をいただいた。また、省内外各局にも調査内容について説明、照会し意見もらうのみならず、本所の研究発表会においてもコメンテーター等からご意見をいただき、調査研究に反映させた。</p>
④ 成果と活用	<p>本調査研究の成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。</p>
⑤ その他	<p>当研究所のホームページにて、国土交通政策研究所紀要として成果の一部（途上国・新興国におけるリープフロッグ型発展に関する調査）を公開した。</p>